

東日本大震災復興支援プロジェクト

第22回活動報告



【参加者】鈴木大亮（総合戦略室）、佐藤浩市（経理システム課）、金内恭子（本店営業課）、星見英朝（生活課）、土方花重（大泉支所）、河野美里（西郷支所）以上6人。

確かな復興の兆しを感じつつも、
当時の爪跡は人の心に深く刻まれたままです。

今年で3年目になるJA鶴岡復興支援プロジェクト。今年度最初の活動を4月13日、職員6人が参加して、宮城県東松島市で実施しました。

この日は、以前から交流のある高齢者介護施設を訪問して、現地の方々とふれあいながら、施設内の草むしりや花苗の植え付け作業などで汗を流しました。

この地区は沿岸部に位置しており、大津波で甚大な被害を受けました。仙台と石巻をつなぐJR仙石線は、ようやく高台に新路線が通ることが決定し、住民も新駅ができる高台付近への移転が進められるそうです。し

かし、高台に居住区が完成するのは今から5年後。あつという間ですよ、と声をかけると、「5年後は決して早いとは言えない。今の場所で生活しているうちは、あの日の苦しみを思い出さない日はない」という切実な言葉が返ってきました。

またこの日は、このほどようやく完成したという地区の合同慰霊碑を参拝した他、現地の方の案内で、全壊した中学校跡地や60人以上が亡くなった介護施設跡地などを見て回りました。プロジェクトでは今後も生産者組織などと連携して、支援活動を継続予定です。



津波で全壊した鳴瀬第二中学校。生徒の減少に伴って、今年3月で閉校しています。



2年前のプロジェクトでがれき清掃を行なった墓地に完成した合同慰霊碑。犠牲者には5歳や7歳の子どもも。